

スペクトラリスの 潜在能力を探る



座長

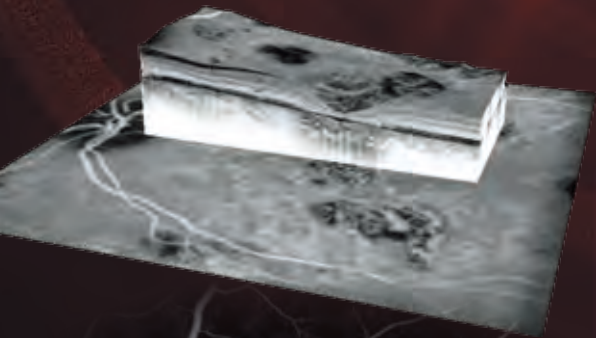
山本 修一 先生
(千葉大)

近年、臨床現場がOCTに求める要素が増加したのと同時に、OCTの多機能化が進んでいます。網膜・脈絡膜・硝子体、緑内障関連、眼循環関連等々、OCTは様々な部位の観察と解析が1台で行える検査機器へと進化してきました。

しかしながらその反面、どの機種も同じような機能が搭載され、機種の差別化が難しくなりつつあります。

そこで今回は、その様な現状に一石を投じるべく、ハイデルベルグエンジニアリング社スペクトラリスの「伸びしろ」にスポットを当て、その潜在能力を探るためのセミナーを企画しました。まずは森先生に基本性能である造影とOCT同時撮影、同時読影の重要性を、平野先生にはOCT Angiographyの特長を、尾花先生にはマルチカラーを用いた、青/緑2波長による黄斑色素密度(MPOD)を計測した新たな知見をお話して頂く予定です。基本性能から新機能までスペクトラリスの能力をご紹介します。

皆様のご参加をお待ちしています。



HRAによる造影所見と OCTの同時読影の必要性

演者

森 隆三郎 先生 (日本大)



ここまで見える Spectralis OCT Angiography

演者

平野 隆雄 先生 (信州大)



スペクトラリスを用いた 黄斑色素密度測定

演者

尾花 明 先生 (聖隷浜松病院)

2018年 **7月21日(土)** 7:50~8:50
[会場] B会場 (ホテルブエナビスタ 3Fグランデ)

共催: 第35回日本眼循環学会 / 株式会社JFCセールスプラン / ジャパンフォーカス株式会社